

対象	小学校高学年以上
教科	朝・帰りの会
該当 単元	小学5年以上  講話資料
教科書	
掲載日	2019.11.12. 朝刊尾張版 12版

北名古屋市野崎の菅信幸さん(79)は35年もの間、同市白木小学校近くの交差点で、子どもたちの安全を見守る活動を、続けている。雨の日も雪の日も、最後の1人が登校するまで、毎日、通学路に立つ。「横断歩道を安全に渡すまで、自分に責任がある」。児童たちを見つめるその瞳は優しさにあふれている。(岩井里恵)



交通量が多く信号のない交差点で、児童の登校を見守る菅さん―北名古屋市沖村柳原で

# 児童の通学見守り35年

## 北名古屋・白木小近く 菅さん、交差点で旗

「おはようございます!」。黄色い帽子にベスト姿の菅さんは、「横断中」と書かれた旗を手に、児童に元気に声を掛ける。通り過ぎるトラック運転手にも「行ってらっしゃい」と呼び掛けた。午前七時五十分すぎ。毎朝の光景だ。

活動を始めたのは工場勤めをしていた四十代半ば。小学校にほど近い信号のない交差点で、通学時間帯に大人が誰も立っていないことに気づいたからだ。「裏道」に使われ、車が多く行き交う通学路上の交差点。「子どもに何かあったらいかん」。夜勤明けに、割り箸で手作りした小さな旗を手に、たった一人、児童たちを見守り始めた。五十五歳で会社を定年退職してからは、毎日のように立つ。集団登校する児童らが通過した後、遅刻して一人で登校する子がいないか、しばらく待機。

「おはようございます!」。黄色い帽子にベスト姿の菅さんは、「横断中」と書かれた旗を手に、児童に元気に声を掛ける。通り過ぎるトラック運転手にも「行ってらっしゃい」と呼び掛けた。午前七時五十分すぎ。毎朝の光景だ。

活動を始めたのは工場勤めをしていた四十代半ば。小学校にほど近い信号のない交差点で、通学時間帯に大人が誰も立っていないことに気づいたからだ。「裏道」に使われ、車が多く行き交う通学路上の交差点。「子どもに何かあったらいかん」。夜勤明けに、割り箸で手作りした小さな旗を手に、たった一人、児童たちを見守り始めた。五十五歳で会社を定年退職してからは、毎日のように立つ。集団登校する児童らが通過した後、遅刻して一人で登校する子がいないか、しばらく待機。

遅刻した児童が低学年なら校門まで付き添ってあげる。当初は「許可を取っているのか」と不審がられた活動も、今ではすっかり認知されるように。たまに風邪で休むと、翌日、児童から「昨日はなんでもなかったの」と声を掛けられる。小学校の卒業生同士が結婚し、「まだ見守りやっとなるの」とそろってあいさつに訪れてくれたこともあった。

四年前に妻と死別し、今は一人暮らし。それだけに「毎朝、元気な子どもにもパワーをもらっている。うれしくてたまない」と笑う。「一日でもやめちゃつと、その先ずつと行けなくなる」と、児童の姿を思い出して奮起し、続けてきた。

市は先月、交通安全環境の向上に貢献したとして功労者表彰を贈った。菅さんは言う。「子どものために、頑張らなきゃと思う。体が丈夫なら、ずっと続けるつもり」。菅さんが毎朝、子どもたちを見守るあの交差点では、この三十五年間、一度も事故は起きていないという。

### 【考えてみましょう】

- 菅さんはどんな気持ちで通学路に立っているのでしょうか。
- 菅さんにどんな言葉をかけたいと思いますか。

## 【活用にあって】

多くの小学校区で見守り活動が行われています。暑い日も寒い日も、雨の日も雪の日も、毎日通学路に立ち、子どもたちの安全を確保したり、元気に挨拶をしたりしている姿をよく見ます。

子どもたちには、そういったことを当たり前のこととせず、感謝の思いで受け止めてほしいと願っています。

子どもたちに感謝しなさいと語るのは簡単なことです。誰だって言うことができます。しかし、子どもの心にはなかなかくい込みません。子どもたちが心からありがとうございますという言葉が発するには、教師としてどう語り掛けるのかが大切です。その語り掛けの方法として、新聞記事の活用があります。

見守り活動を 35 年の長きにわたって行っている菅さん。いったいどんな気持ちで続けているのでしょうか。「一日でもやめちゃうと、その先ずっと行けなくなる」というのは、どうしてなのでしょう。菅さんのいろいろな言葉から、どんな気持ちで立っているのか考えさせることです。

記事を配布せず、概略を話し、考えさせたい言葉を投げ掛けたいですね。どの言葉に着目させるかを考えるのが、教師の仕事です。子どもたちの心にどう迫りますか。